

目 指 す 学 校 像	中高一貫校として特色ある取組を進めるとともに、高いレベルの教育活動を積極的に展開し、明るく活力があり、高い志をもって輝き続ける生徒を育成する。
-------------	---

重 点 目 標	1 中高一貫校の特性を活かした質の高い学びを展開し、地域・世界に貢献する人材を育成する。 2 「文武両道」の理念に立った調和の取れた教育活動を推進し、一人ひとりに寄り添った支援を充実させ、第1志望の進路実現を図る。 3 学校・保護者・地域が連携した開かれた学校づくりの推進と国際理解教育の充実を図る。 4 「市立浦和」の伝統を担う教職員の高い指導力を発展する。
---------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価				
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	
1	【現状】 中高一貫校の特性を活かした多様な教育活動を進め、落ち着いた学習環境の中、内進生と高入生が高い志をもち、相互に高め合える体制づくりに進めることにより進学実績が向上している。 【課題】 進学実績のさらなる向上を目指すとともに、生徒の主体性を根幹とした「探究的な学び」の推進、「学び合い」や「個別最適な学び」の推進、英語4技能の向上への取組、ICT等を活用した学習方法の一層の充実を図りたい。	・中高一貫校の特性を活かした指導の充実 ・中高連携した授業の充実	①中高合同の教育活動を充実させる。 ②高校教員による中学授業、中高相互の授業参観等による連携の充実を図る。	①評価アンケートでの肯定的回答数(率)。 ②中高連携授業の充実が図られたか。	①生徒の中高連携に対する肯定的回答率は80%であった。(昨年度同様) ②高校教員による中学授業に加え、コロナ禍で中止されていた中学生の高校授業見学を復活した。高校生による中学夏期講習のサポートを実施した。	B	○内進生と高入生が切磋琢磨する教育活動を展開することにより、高いレベルの進学実績を維持している。 ○iPadを活用した学習は確実に定着している。生徒の声を聴き新しい学習アプリを検討・導入するなど、次年度も授業等、教育活動での活用や生徒支援を一層充実させたい。 ○引き続き「学び合い」や「個別最適な学び」を進めるとともに、生徒のやる気をより高める授業改善に取り組みたい。	○昨年度に引き続き素晴らしい教育活動がなされている。教職員と生徒の高い志を感じる。 ○授業参観をしたが、ICT 機器を文房具のように使いこなし、時代に合わせた様々な指導を行っていることがよく分かった。 ○継続的且つ統計的な生徒アンケートの実施は、成果と課題を視覚化し学校運営の指標となっている。
2	【現状】 「文武両道」に基づく教育活動を展開するとともに、個人面談を充実させ、生徒一人ひとりの不安や悩みに寄り添うとともに、個に応じた進路指導を実施することで、第1志望を諦めない高い志の育成が定着してきた。 施設については、経年劣化の箇所もあるが、施設を起因とする事故が発生しないよう迅速に対応している。 【課題】 複数の教員が関わる「寄り添う」支援の推進及び安心・安全な学習環境を整備し、生徒一人ひとりが安心感をもてる学校生活を実現するとともに、高い志の育成に取り組む。	・「心のケア」を支える教育相談の実施 ・高い志を育む計画的で戦略的な学習指導、進路指導の実施	①柔軟な日程調整等、個人面談の充実を図り、生徒に寄り添う支援を実施する。 ②「将来の選択」を充実させる観点から大学入学共通テスト「フル受験」を推奨する。	①複数の教員が関わる個人面談を、生徒一人につき年3回以上実施できたか。 ②大学入学共通テストフル受験者数(率)。	①担任と副担任が連携を取りながら、生徒一人当たり年3回以上の個人面談を全学年で実施し、進路指導及びメンタルケアにつなげることができた。 ②大学入学共通テストフル受験率は70.4%となり昨年度の61.5%を上回り、4年連続で60%を超えた。	A	○年3回以上の個人面談等を通じて、生徒のメンタルケアを図るとともに、第1志望を諦めない高い志の育成に迫ることができ、今後も「フル受験」の意義について理解させ、予測困難な時代を生きていく中での様々な資質・能力等の習得にもつながる本校のすべての学びに対して前向きに取り組ませたい。 ○本校の生徒は、学習のみならず部活動や学校行事に一生懸命取り組んでいる。生徒の活躍を学校全体で支援し、引き続き文武両道の進学校を目指したい。	○年3回以上の個人面談の実施や「寄り添う」「育む」という言葉の多用から、心の教育も重要視し生徒に寄り添う体制が整っていると感じる。 ○生徒の普段の様子を見ても、規範意識の高さや部活動への熱意、一生懸命さが感じられる。「ルールを守りマナーを高める」意識を身に付けられることがよい。 ○コロナ前に戻した学校行事が実施でき良かった。
3	【現状】 コロナ禍を経て、昨年度はPTA及び地域のボランティア等の支援を受け、体育祭や文化祭(一般公開)等の学校行事を円滑に実施することができた。ICTを活用して保護者等へ情報発信を行っている。また、「市立浦和」への高い期待と関心に生徒は応えている。 国際交流では交換留学生の受入れや学校行事での留学生との交流等に取り組んでいる。 【課題】 受検生等のニーズに応え、土曜公開授業、学校説明会等を活用し、本校の教育活動を発信していく。また、コミュニティスクールを機能させ、「市立浦和」の特色ある取り組みの研究を継続する。さらに、国際交流を推進し、国際的視野での教育活動を引き充実させたい。	・保護者、地域等の連携 ・「市高生」としての自覚と主権者意識を高め「生徒が主語となる」生徒指導の推進	①コミュニティスクールによる連携を推進する。 ②挨拶の励行、登下校の安全とマナー、いじめ防止、SNSの安全な利用等、生徒が自ら考えて取り組む生徒指導を推進する。	①学校運営協議会の開催及びPTA、地域ボランティアの学校行事への参画。 ②母校訪問の実施。 ③評価アンケート「生徒規律に関する項目」の肯定的回答数(率)。	①文化祭の警備等、各行事について保護者及び地域の方の協力を得られた。 ②第1学年による母校訪問を実施した。 ③規律に関する肯定的回答率92.1%、交通安全への意識に関する肯定的回答率98.9%であった。挨拶への肯定回答率89.7%(5.6ダウン)であった。	B	○第2回学校運営協議会では「防災」をテーマに熟議し、次年度に向けた具体的対応策として学校用備蓄品の確保等に向け検討することができた。 ○引き続き、土曜授業公開や学校説明会だけでなく、1年生による中学校母校訪問を実施するなど、本校の魅力について生徒の言葉で発信する機会を積極的に設定したい。	○学校運営協議会で「防災」について熟議し、学校、保護者、地域、企業の視点から協働できる可能性を探ることができたことは大変よかった。災害に備え、より具体的な行動指針の検討を深化させてほしい。 ○今年度も県内において高い倍率を維持している。生徒の期待に応える授業等の学校運営努力が感じられる。引き続き、本校の魅力を高めてほしい。
		・国際理解教育を充実させ、市教委研究委嘱「グローバル社会で活躍できる人材の育成」を推進 ・さいたま市の国際交流事業等の積極的な活用	①安全な計画に基づき、国際交流事業を推進する。また、SDGs及びSTEAMSの視点を取り入れ、「総合的な探究の時間」等を活用して、国際的視野で教育活動を展開する。 ②市の事業等を活用し国際交流機会を提供する。	①国際交流事業への参加生徒の満足度と無事故の実施。「総探」等における生徒の発表等の成果物。 ②国際交流に関する市事業等へ参加した生徒の満足度。	①海外修学旅行におけるシンガポール大学との交流事業(グローバルシニゼンシップ研修)の生徒満足度に関する肯定的回答率は81%であった。また、「総合的な探究の時間」における国際交流事業に関する取り組みが「さいたまSDGsアワード」で表彰された。 ②ピッツバーグクロスブリッジプロジェクトの参加生徒の満足度は高く、3月に市主催の成果発表会に参加予定。	A	○米国姉妹校や留学生との交流等、国際理解教育の充実に積極的に取り組むことができた。さらに、3月には米国姉妹校交流を実施予定。次年度もグローバルリーダーの育成を目指し、国際理解教育を推進したい。	
4	【現状】 教職員一人ひとりが伝統校「市立浦和」の良さを継承し、誇りをもって教育活動に取り組む、授業や行事、部活動等において生徒一人ひとりの成長を支援している。 【課題】 各教職員のキャリアに応じた研修受講奨励を推進するとともに、業務の更なる効率化を図りたい。	・教職員がやりがいを持ちメリハリある業務遂行ができる学校運営の推進	①管理職が教職員一人ひとりと対話し、研修受講奨励を行う。 ②業務改善における課題について、管理職が教職員一人ひとりと対話し、学校全体にフィードバックする。	①教職員のキャリアに応じた研修受講奨励の実施。 ②新たな業務改善の取組を実施。	①各研修会について周知するとともに、管理職面談等を活用した研修受講奨励を進めたが、更に一人ひとりの業務等の実態に応じた、無理のない研修受講を奨励していきたい。 ②教職員と共に、より働きやすい職場環境の構築を検討し実施した(職員室にレターボックス設置し文書管理の効率化を図った)。	B	○教職員は本校に誇りをもち教育活動に取り組んでいる。しかしながら、教材研究や部活動指導等で業務時間が超過する実態もある。更なる業務改善を具現化し、ICTを効果的に活用した文書事務処理システムの構築について研究を推進したい。	○先生方が同じ方向を向いて指導を行っており、「伝統校としての誇り」をもって指導する気概を感じた。 ○勤務時間が長くなることは保護者としても心配である。不易と流行の中でも業務改善を検討してほしい。